

萬  
國  
初  
完

東井八郎兵衛  
集輯



013746-000-2

特56-264

万国初

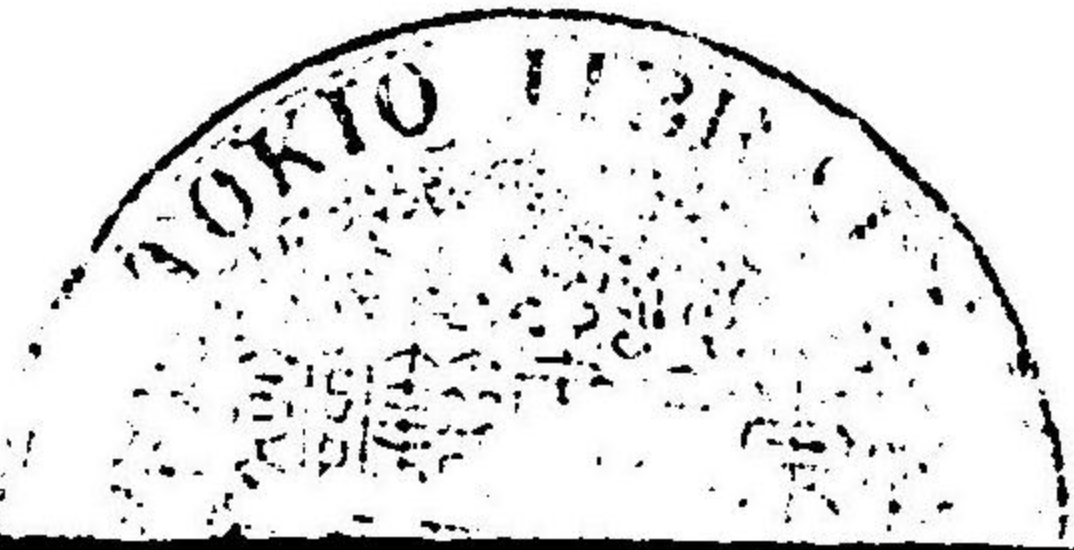
東井 潔全(八郎兵衛) / 編

M9

ABA-0233







# 萬國初全

萬國初の緒言

明治五年初夏鼎小

と建る 小曰く

海軍省圖書局蔵

氣運天 數小隨ひ國政自ら沿革す而して教方亦此機を覺ら

邦ハ治績最も顯る若小皇朝の古と考る小中朝前後王政の

盛なるや大小佛教と興一各州小國分寺と創建す嗣て天台

真言の二教復出恰も並拱無爲の化の如小爾後壽永建久小

至て政度霸府小移や唱名頓禪者流競起て自ら封建割據の

勢を成一能人心と固結一世教と裨益す一盛一衰延て今日

小至る物換星移弊害從て生す今や緇風衰頽碩德寥寥と





萬國初の緒言

明治九年圖書局發行

明治五年初夏鼎小

と建る

小曰く

邦ハ治績最も顯る、若小皇朝の古と考る小中朝前後王政の  
 盛方るや大小佛教と興一各州小國分寺と創建す、嗣て天台  
 真言の二教復出恰も垂拱無爲の化の如し、爾後壽永建久小  
 至て政度霸府小移や唱名頓禪者流競起て、自ら封建割據の  
 勢を成し能人心と固結し世教と裨益す、一盛一衰延て今日  
 小至る物換星移弊害從て生す、今や緇風衰頽碩德寥寥

# 萬國初全



間小者宿の出るありと雖も株を守り柱小膠して時運の變  
 通と看破するの眼無し慨歎すべきの甚しきあり方今  
 新小を置敷科の教生を派出し布教と盛小し兆民と  
 安撫す是小於て  
 普くを置舊弊固見と去内外の典籍小論無く西洋  
 各國の學小至る迄博く研究し大小知識を開しめむと欲す  
 我徒憤然其盛意を体認し渾然郡縣の形をなし天下の緇流  
 同心戮力教法と一新し敬神愛國天理人道皇上奉戴朝旨遵  
 奉の明義を擴充し兆民遍し真政の大意と貫徹し斐然と  
 て開化文明の域小至らしむるの秋なり各派本末寺院希ハ

此小注意し彼此の頑見と破り海内一家皇政と翼賛し此教  
 法として遠く海外小光被せしめむことと

竊小聞教法家なる者ハ兆民の上小立て神理の

奥を探り政と輔て衆と導き智と開らせ徳と進すと以主務  
 とせりと但余ハ僧侶小非ず祠官小非ず無學無文の一貧賈  
 たるもの然小今其職小處せずして猥小此言と發する乎小  
 辨説と好小似し雖も余ガ神と敬し國と愛する本分の素懐  
 曾て沉默する能ざれハ自ら醜陋と省す持小偏見と以斷然  
 諸君小訴告する所あり其意趣専ら吾教法と遠く海外小光  
 被せしめむとす將小海外小光被するハ先吾兆民として一



致小遵奉せしめざるべからず。北民一致の遵奉ハ唯一字の  
 信小有のこ、信ハ實理小有ざれば北民信せず。然れも北民各  
 其見聞小廣狹の異なる有て、心志相同き能ず。一國の事を見  
 一國の事を知ハ、一國の伎倆なり。萬國の事と聞萬國の事と  
 知ハ、萬國の伎倆なり。方今萬國交通の際小在てハ、中外の論  
 無ク其開闢せし由來の古傳と知ざるべからず。知て後之と  
 取捨せざるべからず。是此書と纂輯し其首小各國開闢傳と  
 羅列し次小史教天理の論說及備考と附録し以之と梨棗小  
 殃し甘し大方の椰掄と辞せざる所以なり。蓋夫萬卷の羣  
 籍と通覽し古今の事情小徹底し天地の異物と詳明し而し

て其秘蘊と發し其真理と撰し復び參孝折衷して以言と立  
 且曲從拗合して以義と通し百路と一轍小輯て更小赤幟と  
 立むとする如ハ聰明英智小して博學饒識なる聖賢すら尚  
 難とする所なり。況や余輩 羸滕擔囊の沽夫家資窮乏小して  
 書と宥る能ず生業繁雜小して友と訪小違無く常小淺見寡  
 聞の嘆小耐ず然小今狗智豕才の敢て企及難と揣らすして  
 燭を秉て夜小遊び先哲の殘鼎と拮據して之を刪補綴輯し  
 百方千計焦思苦慮の此小逮ふ所以ハ苟も大日本人民の  
 職分と盡し以敬神天理の大義と説明せむと欲する一斗の  
 至誠是のこ唯愧らくハ余が稟賦魯蒙小して文小嫻ず故小



其體裁自ら支離小裊て又扞陞安うらざるあり、加旃校正の際、勿卒小出ると以誤脱必ず勘うらざるべし、希くハ賜覽の諸君、幸小之と監察せよ、

明治七年第六月

東井潔全 識

凡例

一此書ハ中外各國攙雜の羣籍を撮て、環閱校讎を努て、之を抄出し、復折衷拔萃せし故小、前後の文氣幹旋の勢小因て、一句一字皆轉換して、本文と離合の段落を成せりと雖も、約本文の意と曲ざるを旨とす、今其煩と厭て、盡く引用の書目と登舉せず、

一此書ハ、強て冊數を減し、達意と主とする故小、簡小凭て略小、從と雖も、専ら其緊要と摘采し、輒く其顛末と通曉せしめむと欲するより、唯繁冗小、涉と恐て、詳細と盡す能ず、夫史、教、天、理の四學科と涉獵し、其精妙と究むと欲する如き



共小輕卒の易業小非ず此等の學科ハ皆意味深奥なりて  
 冊部厚長なる能萬人の所知の者なれば安ぞ獨此小冊子  
 と以足まりとせむや余輩唯其初端を開のこ  
 一傍訓ハ敢て鄙俚と厭す多く意解を用ふ是余輩が得意と  
 する所なり且平易なるも亦盡く其訓讀と施す者ハ單小  
 覽者の通達と曠め更小反覆探覽の便小供す

輯者 再識

款題

- 日本開闢傳第一 初葉
- 蝦夷開闢傳第二 六葉
- 支那開闢傳第三 七葉
- 印度開闢傳第四 十一葉
- 波斯開闢傳第五 十六葉
- 猶太開闢傳第六 十八葉
- 埃及開闢傳第七 二十三葉
- 希臘開闢傳第八 二十五葉
- 古史略論第九 二十九葉



教法略論第十	三十二葉
天文略說第十一	三十五葉
理學略說第十二	四十葉
附錄備考第十三	四十三葉
款題通計十三而畢	

神皇正統記  
卷之五  
開關傳第一

東井潔全 識

古へ天地未だ生ざり初發の時高天原小成坐る神の名ハ  
 天之御中主神次小高皇產靈神次小神皇產靈神此三柱神ハ  
 並獨神成坐て身と隱給き爾小大虚空の中ハ一の物生て其  
 狀言難く浮雲の根係所無グ如く漂蕩時小其中より狀葦牙  
 の泥の中より生初グ如いて萌騰物あり其物小因て始て成  
 坐る神の名ハ宇麻志阿志訶備比古遲神次小天之底立神此  
 二柱神也亦獨神成坐て身と隱給き別天神と稱す神ハ次小又



物あり、空中（空）中生り、此（此）小因（小）て成坐（成坐）る神の名ハ、國之底立神次  
 小豐斟淳神此二柱神也、亦獨神成坐（成坐）て、身を隠給（隠給）き、次小國地  
 稚在（稚在）一（一）時小成坐（成坐）る神の名ハ、宇比地（宇比地）邇神次小妹須比智邇神  
 次小角織神次小妹活織神次小大斗能地神次小妹大斗乃辨  
 神次小於母陀琉神次小妹訶志古泥神次小伊邪那岐神次小  
 妹伊邪那美神、美上（美上）の神、以（以）國之底立（國之底立）神、世（世）七（七）代（代）以（以）伊邪那岐神、伊邪那  
 神各（各）二（二）神（神）と合（合）て、一（一）代（代）十（十）神（神）爾（爾）小其天神諸の命以（以）て、伊邪  
 那岐伊邪那美二柱神、是漂在國と修固成と詔（詔）て、天の瓊（瓊）戈  
 と賜（賜）て言依給（言依給）き、故二柱神、天の浮橋（浮橋）小立（立）て、其瓊（瓊）戈と指下  
 して、青海原と畫給（畫給）バ、鹽許袁呂許袁呂小畫鳴（畫鳴）て、引上給（引上給）時小

其戈の末より垂落潮自然小凝積（凝積）て島と成、是於能基呂島也  
 二柱神其島小天降坐（降坐）て、天の瓊（瓊）戈と衝立（衝立）て、國中の御柱と、  
 天の御柱と見立、八尋殿と化作（化作）て共小住給（住給）き、故其瓊（瓊）戈後小  
 於是二柱神是天の御柱と行廻逢（廻逢）て、美斗能麻具波比（波比）せなと  
 詔給（詔給）、久美度小興（興）して御合坐時（合坐時）小其術と知看（知看）ず、爾小鶺鴒飛  
 來て其首尾と揺す、二柱神見行（見行）して之と學（學）び、交の道と得給（得給）  
 て御産す時（御産す時）小先淡路穗之狹別島と胞（胞）として、大八島國を生（生）  
 給（給）き、故處處の小島ハ、皆潮沫の凝成（凝成）るなり、爾小妹妹二柱神  
 嫁繼給（嫁繼給）て、國の八十國島の八十島を生竟（生竟）、次小八百萬の神を  
 生給（生給）て、亦悉く萬物を生給（生給）然して後小伊邪那岐命、吾所生



國ハ唯朝霧の薰滿哉と詔給て吹撥せる氣小成坐る神の  
 名ハ志那都比古神次小志那都比賣神此二柱ハ爾小伊邪那  
 美命麻奈弟子小火産靈神神と生給て蕃登と焼て病卧坐  
 き其悶鬱懊惱一時小多具理小成坐る神の名ハ金山毘古神  
 次小金山毘賣神比二柱ハ於是伊邪那美命吾ハ下津國と知  
 むと白て石隠給與美津枚坂小至坐て思食さく吾那勢命の  
 知食上津國ハ心惡子を生置て來と復返坐て更小彌都波  
 能賣神水埴夜須毘賣神土及天吉葛川菜此四種の物と生給  
 て此心惡子の心荒と水神ハ瓠土神ハ川菜を持て鎮奉ま  
 事教悟給て其伊邪那美神ハ遂小神避坐ぬ於是伊邪那岐命

其妹と相見まく欲して豫母都國小追往給殿の騰戸より其  
 殿内小入坐て左の御美豆良小刺せる湯津杵櫛の男柱一箇  
 取闕て一火燭して入見坐時小宇士多加禮斗呂呂岐てハの  
 雷公副居き伊邪那岐命見畏て逃還ます時小伊邪那美神恥  
 恨給豫母都志許賣八人と遣して追しめ最後小ハ身自追來  
 ましき是時伊邪那岐命己小豫母都平坂小到坐て千引の磐  
 と其坂路小引塞各對立して事戸を度す時小伊邪那美神吾  
 ハ汝の國の人草と一日小千頭絞殺さなと白給き伊邪那岐  
 命詔曰し汝然為給ハ吾哉一日小千五百産屋を立なむ汝ハ  
 此より以還來莫と詔給て即其杖を投棄給既小還坐て悔給



吾ハ伊那志許米志許米伎汚穢國小至て在り、故身の穢惡  
 を滌去むと詔給て、筑紫日向の橘の小戸の阿波岐原小到坐  
 て、禊祓給時小八十枉津日神を吹生給小、此神ハ其汚穢國  
 給い一小因て次小其禍を直さむとて、神直日神を吹生給  
 成坐る神なり、然して後小左の目を洗給一小因て成坐る神の名ハ天照大  
 御神復右の目を洗給一小因て成坐る神の名ハ健速須佐之  
 男命と稱す、故ハ計枉津日神ハ天照大御神の荒魂なり、爾其  
 天照大御神質性小光華明彩坐て、天地小照徹らせり、故伊那  
 那岐命詔曰く、吾子多なれど、若此靈異なる子ハありず、此國  
 小留べき小ありずと、即其頸珠の玉緒瑿瑿小取由良迦志て、

天照大御神小賜て、汝命ハ高天原を所知と事依給き、是時天  
 地の相去こと未遠うらざり、うらバ天の御柱を以天上小舉  
 奉給き、故天照大御神ハ其依賜る命の隨高天原を知看き、次  
 小健速須佐之男命小詔曰く、汝命ハ青海原潮の八百重を所  
 知と事依給き、爾小須佐之男命其依賜る國を治さずて、哭伊  
 佐知志き、亦勇悍安忍坐て、人草多小夭折き、於是伊那那岐大  
 神大忿怒坐て、汝ハ此國小勿住、情の任小夜之食國を所知  
 と詔給き、其後伊那那岐大御神ハ神功既小畢て、天小昇ま  
 報命白給て、仍日之少宮小留宅給小、爾小須佐之男命ハ天照  
 大御神小請て、母の國根之堅洲國小罷らむと欲し、雲霧を跋



涉て天小參上給時小山川悉小動之國土皆震き天照大御神  
 聞驚うて我國を奪小來ませると思食させ伊都の男健踏  
 健て親ら迎給各天之安河を中小置相對立して須佐之男命  
 異心無と宇氣布時小天照大御神の左の御美豆良小纏せる  
 八尺勾璫の五百津の御統の珠を乞度て瓊響瑤瑤小天の眞  
 名井小振滌て佐賀美爾迦美て吹棄る氣噴の狹霧小男子生  
 坐き於是須佐之男命言興して正哉吾勝と曰給因其子の名  
 と正哉吾勝勝速日天之忍穗耳命と謂す爾小天照大御神詔  
 曰く此男子ハ物實我物小因て成ませり故自ら吾子なりし  
 特小鍾愛て常小腋小懐て育給き仍腋子と奉き其後小天照大御

神の命以て豊葦原千秋長五百秋之水穗國ハ吾子の知すべ  
 き國なりと言依賜き爾小天忍穗耳命吾ハ降をむ裝束せし  
 閉小子生出つ名ハ天邇岐志國邇岐志天津日高日子番能邇  
 邇藝命此子を降べしと白給き故是を以白給隨邇邇藝命小  
 詔科て天都高御座小坐奉て此豊葦原水穗國ハ汝知さむ國  
 なりと言依賜て命の隨天降坐べしと詔給き於是天照大御  
 神手小鏡劔を捧持賜て言壽詔曰く大八島豊葦原水穗國ハ  
 吾子の孫王と坐べき地なり此の鏡ハ專吾魂として吾前を  
 拜が如く同殿同床小坐しめて齋奉給へ寶祚の隆坐むこと  
 天壤の與無窮なるべしと詔給て復天兒屋命と天太玉命と



小勅曰、惟爾二柱神も同殿内小侍て、御前の事取持て爲政  
 と、爾小神魯岐神魯美の命以て、高天原小事始て、天都詞の大  
 詞事稱辭竟奉らゝめて、諸部緒の神等を支加て、與小陪從め  
 給通邇藝命小詔して、天の磐座を離ち、眞床覆衾小褰奉りて、  
 天の磐戸を引開て、天降奉き、故其援田毘古神を先小立して  
 諸の神陪從奉て、天の浮橋小宇伎士麻理蕪理多多志て、天の  
 八重多那雲を排分て、稜威の道別道別て、筑紫日向の高千穂  
 の久士布流峯小天降坐り、此の通邇藝命と稱奉るハ、  
 大宮柱太敷築立て、天の御事小坐す天律  
 日嗣の天皇命の遠都御祖神の御事小坐ませり

蝦夷開闢傳第二

往古未と國土といふ物無り、時小青海原の中小浮油の  
 如き物有て、其物の氣自然小して燃立るが如く、炎炎と上小  
 昇て、天空とまきり、又下小留て濁まる物ハ、凝固て島根と成  
 其島根の始ハ、今の後方羊蹄名の岳なり、斯て島根ハ、月日を  
 重て大小堅まり、然る後小島根の氣復更小凝聚て一柱の神  
 と化まり、又昇る清き氣の天空と成る處小、其天空の  
 氣凝聚て一柱の神と化まり、此天空の神五彩の雲小乘て島  
 根小降、其島根の神と相議て、萬物を造化すべき誓を定め、先  
 其乘る中の青雲と海小投入て水と化よと誓ひ、黄雲を以  
 島根の隈隈と埋塞き、赤雲を蒔て、金銀珠玉の類なる器財と



化よと誓ひ、白雲を散して草木鳥獸魚蟲と化よと誓畢り、其  
 種種の諸物化調する後ハ、又此二神の意匠を受繼て、國土及  
 萬物を經營すべき神無ク故ハ、如何ハせむと工夫を案らる  
 時ハ、二神の前ハ、一羽の鴉飛來て、唯其眼を吧咤吧咤となし  
 りまきバ、二神之を視て、最面白と思えき、其時ハ何事やらむ行  
 ハき、小因て、甚多の神達と産出せり、是を以て其土俗鴉を飼  
 多ク立て神ト其多き神達の中ハ、殊小勝するハ百吸列占福  
 謂ゆる大陽とツル神ト、訓色捏占福即月とツル神ト、然も其  
 日の神なり、光明の麗る、二神在る、其所以ハ此國土、往古の時より  
 霧靄深して暗き故ハ、之を照さむ爲ハ、百吸列占福日ハ雌岳

より、訓色捏占福神月ハ雄岳より、彼遺まる黒雲ハ乘て天空ハ  
 昇まり、其餘の神達ハ、火を生ずる神あり、此神ハ粟黍稗の  
 種と蒔植る耕作の事どもを教し、神なり、又土を司どる神ハ、  
 捲て草木の事より、木の皮を剥て衣服を作る事を教らる、又  
 其餘ハ、水と司どる神、金を司どる神、蒼生を司どる神、達有て、  
 各相議て、鮭を取、鱒と突、青魚と網する等、江刺の姥神等の類  
 種種の工夫と凝して、其末ハ生る、神達ハ教傳らまことり、  
 此古傳説ハ、此國の唱歌、由加利と名る、謡曲ハ委しくあり、  
 然まど其場所ハ由て、大同小異ありとツル、但本文ハ記す  
 説ハ、此地第一等の博識ハして、故事を善知とる、夕張國の



達岡名地なる、古東藍コトシラシといふ人小聞一儘いさなりと、伊執人松浦竹四郎あひはせれが著述する、東西蝦夷山川地理取調紀行といふ書の、夕張日誌の巻まきを出せるを引用いかりひとく

支那開闢傳第三

太古の時、物の混まじり成る有て、天地あめの先まごちて生なせり、此物寂しずか寥れい々々として坐まを改あらす、周しうく行ゆて殆たくらず、以もて天下の母ははとなる、之これの字あざなして道みちといひ、強つよて名なて大おほといふ、道の物ものたる趣おもむき、恍惚わうこひして其中そのうちの象さうあり、窈冥やうめいして精せいあり、其精そのせいハ甚たまに眞まこと其中そのうち小申こまうあり、古いにしへより今いま及およびまじり、其名そのなを去おとす、以もて衆しゆの甫はらを聞き此申こまうと上皇かみみか大おほ一ひとといふ、世よに謂いゆる無極むごくの物もの是こゝに後のち上皇かみみか大おほ一ひとハ

九天きうてんの上うへ太清たせいの中なか太眞たしんの外そとなる、微細びさいの内うち小あり、道みちハ自然じぜん小法せうぽうて一ひとを生なす、自みづか然ぜんの無極むごくハ渾こんて太極たいごくを生なす、是こゝに蓋おほなり、此一ひとより二ふたを生なす、謂いゆる陰陽いんやうと生なす、此こゝ二ふたより三さんと生なす、天地人てんちじんの三さんハ乃すなはち萬物ばんぶつを生なせり、萬物ばんぶつの出所いっしゆハ大おほ一ひとの造り、金易きんぎの變化へんぱハ因よて萌芽もが、始はて震ふるき、寒ひやハ凝こりて以もて形かたちを成なす、故ゆゑ小名せうなの無なハ天地てんちの始はりて、既すなはち小名せうなの有あハ萬物ばんぶつの母ははなり、此こゝ兩ふたの者ものハ無窮むきゆうの先まなる、物ものの道みちより同おなく出いで、無なと有あと名なを異ちがへず、まじり、同おなく之これと玄げんといふ、其玄そのげんの出いで、又また玄げんの衆妙しゆめうの從したがひて出いで、門かどハ乃すなはち大おほ一ひとの元氣げんき是こゝに、故ゆゑ小大せうだい一ひとハ中央ちゆうやう小位せうゐて、百神ひやくしん咸みなが制せいを仰おほり、蓋おほ天地てんちの未分みぶんなる時ときハ渾こんて沌ちんなる、雞たま



子の如く、盤古氏其中、胞胎て在り、一萬八千歳を経て時  
 至日ハ甲子、歳ハ申寅、小して天地開闢せり、其開闢の趣とる、  
 清て輕者ハ上、小萌騰て天となり、濁て重者ハ下、小凝締て地  
 となる、盤古其中、小在て、一日、小九とび變り、天、小ハ神、小して  
 地、小ハ聖とり、夫盤古ハ、天地造化の本主、舍易萬物の宗元な  
 る、ま、固より身を分ち、體を合する術を難とせず、大小の變化  
 自在、小して、神通の不測なる、天、小沖地、小潛り、或ハ現、或ハ伏  
 天、小在て、ハ、萬物を引出べき、天道の樞機を發し、地、小在て、ハ、  
 八風を鼓動し、萬物を生成べき、地道の妙用を興せり、此時、天  
 日、小高こと一丈、地、日、小厚こと一丈、盤古、日、小長すること一

丈、此の如なること、又一萬八千歳を歴て、天ハ極て高く、地ハ  
 極て深く、盤古極て長せり、盤古又自然、小して、夫妻あり、夫の  
 名ハ、元始天王、妻の名ハ、大元聖母とり、蓋此二神ハ、陶鑄造  
 化の主、小して、天地萬物の祖なり、天地初て立て、元氣肇て、啟  
 時、小方て、天皇氏あり、謂ゆる 皇天 昆侖の東南、無外の山より  
 出て、木徳と以、王となる、又地皇氏あり、女面、小類る、熊耳龍門  
 の空巖より興まり、夫の 昆侖無外ハ、天官、小あり、熊耳龍門ハ、地  
 と、地靈、此の 時、大地ハ、未ど乾、夫の 泥、砂潮、小清まり、天皇氏、元氣を  
 斟て、地の樞軸を陳、以、易威と立、六合を觀て、天柱と五方、小立  
 地理と四維、小安めり、是、小于て、山川岳谷形と成て、天地位を



設萬物各其宜と象じり又皇伯皇仲皇叔皇季皇少といふ五  
 兄弟あり俱小龍小駕て天地小上下す故小之と五龍といふ  
 五龍氏ハ謂ゆる五帝小方ハ類を以別り物ハ羣を以分り性  
 命同りすすして皆有小形あり隔て通せず分て萬物と成し  
 雖も而も能及宗無し故小動て之を生といひ死て之を窮と  
 り此皆物の道なるの泰古天地の二皇ハ道の柄を得て  
 中央小立神と化と與小游て以四方を撫故小道ハ天を覆ひ  
 地を載て高こと際べりす深こと測べりす山ハ之を以  
 高く淵ハ之を以深く獸ハ之を以走鳥ハ之を以飛日月ハ之  
 を以明り小皇歷ハ之を以行ハる天地二皇没て人皇氏之小

次ぐり人皇氏ハ雲祗車小乘六提羽小駕して谷口より出づ  
 其身形を分て九小章る故小九皇といふ九皇各九河を分ち  
 山川土地の勢小依て度を裁て九州といふ之を九圍といひ各  
 區別して其一方小居り故小又居方氏の名あり人皇の本身  
 乃其中州小居以分形ハの輔を制馭す此州の名ある始なり  
 繼て拒神黃神次民辰放離光拍皇の六皇出て天下を經營す  
 六皇没して太昊伏羲氏出て之小次ぐり上古の時華昏の洲  
 小神女あり巨人の跡を履て意動時小青虹あり神女を繞久  
 して方小滅神女即娠こと有と覺十二年を歴て伏羲氏を生  
 伏羲氏ハ風姓木徳を以天下小王とり故小扶桑大帝といふ又  
 春皇といふ又東王父といふ



稱其妹女媧氏又神聖の徳あり、西王母なり乃夫天地開闢の  
 已來未だ人民ありず是は子て女媧氏黄土を搏て人を爲す  
 務劇しくて力之を供る暇あざれば則繩組を泥の中引  
 引て擧て以人となす故に富貴なる者ハ黄泥引造る人種  
 なり時小人民別無く物と羣て禽獸小殊なりず但其母有を  
 知て其父を知らず卧ハ吐き起まバ呼り飢まバ食を求め飽バ  
 餘を棄て毛を茹ひ血を飲其皮革を衣とせり禽獸初ハ人と  
 與小同處並行て怖まず次小驚駭て散亂ま末小逮てハ逃竄  
 して其患害を避る小至まり伏羲氏命を天小受て人の主と  
 なり泰乙小子小議て此人民をして人の倫理を教時を度て

宜と制し罔罟を作て佃漁せりめ以民の用を贍し六畜を取  
 て其色麇小充小是は於て人民の治まり羣生和洽して各其  
 性命を安せり其泰乙小子ハ元始天王入室の弟子小て常小  
 方諸宮中小在て人民萬物の命數を司どる神僊なり其貌ハ  
 嬰孩の如き故小僊宮ハ小童を以號とす泰乙小子又金闕  
 王清華小童君又東華其才眞俊小して大同の制を執泰鴻の  
 氣を調へ神明の位と正す者なり故小九皇も傳と泰乙小子  
 小受て以其然の生する所を索め制と殊小して政と効ざる  
 こと莫が故小伏羲氏も又傳と受て天地人事三才の本義と  
 此泰乙小子より傳られて政を行へり



印度開闢傳第四

劫初の時ハ、唯虚空のこあり名て提婆阿波會といふ、此ハ光  
 音天の義此虚空ハ常ハ過去の衆生善因ある者の靈魂此ハ  
 金色の光明と發す故ハ過去世の衆生善因ある者の靈魂此ハ  
 生報の五通小因て、天の五欲と受て共ハ相快樂せり、故ハ  
 天趣と名く、是の如き淨行の靈魂ハ勝果平等ハ一  
 致ハ政治ハ一ハ諦と大統領と立たざるガ如ク、天趣の相ハ形有て  
 影なく、身より光明と放ち香潔小して輕妙飛行自在隨意小  
 遊歩する小往ところ礙無ハ彼天趣の如キハ、男ハ非ず女ハ  
 非ず形相一種小して生ハ則化起ハ死ハ還て化滅す宛ハ彼  
 光炎の燭ガ若ク熄ガ若ハ爾時復無量久遠と經こと數計ベ

りす、天趣の通カハ、恒ハ能過去の宿因と觀ことと得、前生  
 因ハ愚痴邪見等の是の如く觀己て、前の正念を滅ハ愛欲小  
 無明行と縁とせり、是の如く觀己て、前の正念を滅ハ愛欲小  
 執著ハ惑業を招集、天中ハ黑闇の一氣を造作せり、其氣化  
 て神となり、名て摩醯首羅といふ、濕伐羅といハ此ハ摩訶  
 大梵自在天王の義なり、諸經論ハ或ハ此神の法身ハ一切處  
 色究竟天の主阿迦尼吒と合せ稱せり、此神の法身ハ一切處  
 小遍して量ハ虚空小同トク、一切智と具一切法を生ハ一切  
 物と造る、世間萬品ハ皆是天體なり、故ハ愛憐の念濃ク禍福  
 の報ハ疾なり、現在の苦樂安危唯一自在天の能力と以一切  
 も皆是一天の賦する所とせり、唯一自在天の能力と以一切  
 萬法能起の一因とす、此一因の本ハ煩惱惑業の増上カなる  
 故ハ、彼黑氣を動して寂靜とる虚空小漸ク微細の風と生ず



風強盛なる小從て、虚空小遍滿して、遂小風輪となき久時小  
業カを以の故小、大重雲と起、大洪雨と注ぐ、滴車軸の如小、  
雨水積聚て、遂小水輪をなせり、是の如き水輪未だ凝結せざ  
對相觸て、能小唯増上業カを以の故、小於て、何ぞ傍小流散  
と持、世界の本際ハ、唯大水の、時小安茶といふ物あり、此  
中、小出形鶏卵の如小、熟乳停、上ハ凝、割て兩段となる、上ハ  
天小て、下ハ地なり、其中小神あり、名て韋紐那羅延といふ、譯  
て持華金剛大カ士の義、世間小巡遊、此神の齋の中より、千葉  
金色の妙寶蓮華を生ず、其大光明ハ、萬日の俱小照、如小其  
蓮華の中、小神を生ず、藥の上小結、跏趺坐せり、名て尸棄梵迦

夷といふ、譯して、火首淨身離欲梵天界ハ、風輪の依止する所  
小在て、復無量の光明あり、此天ハ一切物を育、萬有の本因  
なり、爾時四方一時小大風を吹起、大水を搏撃て、混亂して  
停、名て阿那毘羅といふ、譯して、迅猛風の義、水中自然小大  
沫聚を生、沫漸小堅牢、故小水輪減、轉して金輪となる、  
此金輪の上小、大地を造作せり、時小有情の業火、地上小燃出  
雲興り、雨降て、積水奔濤、猛風鑽擊して、大地を蒸鍊、一切衆  
寶等、金銀玉石草、と變生す、是の如く、既小變生、已て復別風  
と起、大地を滾く掘て、湛然と水を住、甘鹹の味を分ち、亦  
衆寶を簡別、復聚集て攝ら、め山を成洲を成、究竟なり、已て、



九山八海と現せり、九山の中須彌又蘇迷盛といふ高山の義、最も高  
して、地の正中小處せり、餘の八山ハ山毎小海と遠して、須彌  
と周匝す、第七の山の外小鹹海盈満、東弗婆達南閻浮提、西  
瞿耶尼、北鬱單越の四大洲あり、此鹹海の外小拓迦羅鐵圍山  
のありて、輪の如く圍繞し、世界の牆と成せり、須彌の有頂と  
忉利天と名く、梵の正音ハ多羅夜、登陵舎其天王と釋提桓  
因とい小、或ハ釋提婆那因即天羅帝釋なり、又天后の名を舎脂  
羅睺といつり、天帝釋ハ大威徳を具する故小、提頭頼吒持國  
毗留勒又南主毗留博又西主毗沙門北主の四天王及諸天部  
と領して、阿素洛王勒摩質多と降伏し已て、世間一切能生と

護持す爾時大地小ハ了小所有無く、未日月有す、光音の諸天  
漸小煩惱小長し、愛欲を生ずる故小、或ハ新地を觀と樂て來  
下する者あり、或ハ勝果の福盡て降生する者あり、天ハ歡喜  
と食とす、來生の天趣ハ惑業滾ガ故小、性多ハ輕躁となりて、  
歡喜漸小少し、時小地小自然の甘泉と涌出せり、試小指と以  
嘗る小、味酥蜜の如し、段ある食と受小、由て漸小麤肥と生し  
天の妙色神足光明と失ひ、身體堅重して、飛行すること能ず  
神通有こと無く、天變じて人と化り、光隱没る故小、世間漸小  
冥く、遂小大黒闇となりて、後小大黒風と起り、海水を吹開て、  
日月を漂出し、須彌の半小置、日道の中小安し、四天下と照し



西方西方小行西方旋西方一西方む西方盡西方夜西方晦西方朔西方あり西方時西方小地西方味西方小耽西方て西方著西方食西方多西方者西方ハ西方  
 顔色西方鹿西方悴西方著西方食西方少西方者西方ハ西方顔色西方小光西方澤西方あり西方是西方の西方如西方く西方相西方小勝西方負西方あり西方也西方  
 地味西方歌西方て西方後西方小地西方皮西方餅西方及西方諸西方種西方の西方食西方等西方展西方轉西方一西方て西方次西方生西方ず西方ま西方ど西方も西方  
 飲食西方貪西方婪西方なる西方故西方小皆西方久西方ら西方ぶ西方ず西方一西方て西方轉西方滅西方一西方己西方ま西方り西方是西方の西方如西方く西方  
 多時西方小一西方て西方最西方後西方更西方小自西方然西方の西方糝西方米西方と西方生西方ず西方糠西方糲西方有西方こ西方と西方無西方く西方調西方  
 味西方と西方加西方す西方一西方て西方衆西方の西方甜西方味西方と西方備西方小取西方て西方所西方食西方小充西方糝西方米西方鹿西方なる西方が西方  
 故西方小穢西方殘西方て西方身西方小あり西方穢西方と西方蠲西方除西方が西方爲西方小二西方便西方道西方と西方開西方て西方男西方女西方の西方  
 根西方と西方生西方せ西方う西方ハ西方情西方慾西方多西方故西方小二西方根西方殊西方なる西方故西方小形西方相西方も西方亦西方異西方なり西方  
 病西方習西方カ西方の西方故西方小互西方小相西方と西方瞻西方視西方て西方乍西方欲西方想西方と西方起西方一西方遂西方小非西方理西方と西方生西方  
 一西方共西方小屏西方所西方小於西方て西方恣西方小不西方淨西方と西方行西方ふ西方姪西方欲西方轉西方増西方一西方て西方夫西方妻西方の西方名西方

あり東方夫東方妻東方共東方小住東方小外東方見東方と東方厭東方が東方故東方小屋東方宅東方と東方結東方構東方一東方て東方不東方淨東方の東方  
 行東方と東方匿東方せ東方り東方爾東方後東方諸東方天東方此東方土東方小生東方する東方者東方ハ東方名東方色東方觸東方の東方三東方惑東方業東方と東方  
 縁東方と東方する東方小因東方て東方闇東方冥東方の中東方小心東方意東方識東方と東方生東方一東方愛東方小縛東方が東方ま東方て東方女東方  
 人東方の東方胎東方中東方小投東方入東方せ東方り東方此東方因東方縁東方と東方以東方愛東方と東方流東方せ東方バ東方嵐東方と東方時東方小諸東方天東方  
 日東方夜東方小惑東方業東方多東方故東方小一東方切東方衆東方染東方と東方集東方合東方一東方て東方衆東方人東方界東方小生東方る東方故東方小  
 衆東方生東方と東方名東方く東方無東方明東方無東方礙東方の東方初東方ハ東方光東方天東方常東方住東方一東方て東方四東方苦東方有東方こ東方と東方無東方一東方  
 苦東方ハ東方人東方身東方有東方小印東方度東方古東方梵東方志東方の東方謂東方乱東方す東方る東方人東方界東方の東方四東方苦東方ハ東方淫東方欲東方人東方と東方此東方四東方す東方也東方  
 苦東方本東方と東方厭東方離東方一東方て東方寂東方滅東方と東方求東方め東方天東方小生東方する東方と東方以東方最東方上東方真東方諦東方と東方此東方四東方す東方也東方  
 其東方衆東方生東方の中東方小非東方法東方と東方行東方ふ東方者東方ハ東方惡東方因東方小感東方應東方一東方て東方身東方死東方する東方後東方  
 自東方立東方する東方こ東方と東方能東方す東方報東方と東方横東方生東方小受東方て東方四東方畜東方生東方と東方な東方ま東方り東方一東方足東方小生東方







波斯開闢傳第五

全世界ハ是今と去こと十餘萬年前ハ一の卵の中より生きたる物なり古昔天地を初造す大尊神の名と蒲刺瑪といふ或ハ蒲刺瑪混斯と名獨一謂ゆる天神なる此尊神ハ最上無極の神徳と有る故ハ更ハ指令せずして大小の諸神皆其神慮ハ従りといふ彼大卵ハ蒲刺瑪の造化す物なり又支華といふ神あり此神ハ物の破滅と主とる故ハ杵を以大卵と撃碎り時ハ大卵兩段ハ剖判て其中ハ虚斯督奴護といふ神あり或ハ維縵努一隻の大鷹の背上ハ坐せり全世界ハ此大鷹の牙の邊ハ當て成まる物なり虚斯督奴護ハ神通廣大

小にて變化方無故ハ其變形種種小にて一なり或ハ半身獅子小にて半身ハ人なるもあり或ハ一の頭ハ四の臂なるもあり或ハ美麗なる童子の形となすもあり此他の變形尚甚ど多し此神ハ専ら世界人民の生死と主どり又物の回復と主とる神小にて蘇乙劫爾契ハ所居せり蘇乙劫爾契ハ土又ハ清淨天界の類なる所也此神の左右の傍ハ拙而百低及徳兒悉印垵といふ美麗なる二人の神女侍従し各生死の司命と分て日夜玉簿小記録せり既ハ人民滋生せし時ハ天地の間ハ高妙不測の二神あり一と和爾摩斯といふ此神ハ善と掌とる一と亞利慢といふ此神ハ惡と掌とまき二神其



職掌と分て、宇宙間と統轄せしむ、後小各其病志を達せむと欲して、鬭争止時無し、一萬二千年の終小至て、和爾摩斯善神大能力と起し、以星光と造り、次小月輪と造り、最後小日輪と造出す小至て、大火炎と發して、天下の諸惡と焼込し、全く彼惡神亞利慢小捷ととを得たり、此争亂肇て平定して、後小伊瑣刺といふ神、或ハ瑠法徳天より高山の頂小降き、其像ハ全く人類小異ならざれど、三の眼有て、其一ハ額の上の正中小あり、又十六の臂有て、種種の器物と把持てり、領小ハ玫瑰及諸種の花と掛て、肩の上と飾り、虎の皮と衣とし、象の皮と外套とせり、此神天より降し、時ハ玫瑰諸花芳香芬馥て、諸鳥

妙音と發し、水土清淨小して、種種の奇相と現せり、是小於て伊瑣刺乃國人小教と施し、人民小安樂なる道と得せしめて、後復天小昇去き、其伊瑣刺小配偶する女神の名と把勒默斯瑟理といふ姿容溫柔なり、配合して、後小三男一女と生り、之と稱して厄鳥愕句といふ、譯して新其第一と格那巴第といふ、蘇乙劫爾熱小居住し、虛斯督奴護小亞て、其所小主とり、其像ハ人小異ならざれど、頭及牙喙共小象小似て、而も四の臂あり、第二と悉利華奴曼といふ、其像頗る獼猴小類す、第三と修百兒榜尼亞といふ、其像六の面小十二の臂あり、第四ハ女神小して、名と把答刺瓦利といふ、姿容ハ美麗なれど、八の



面小十二の臂あり、各の耳小懸る小寶玉を以飾と一、又二の  
 大なる象牙を以糝とせり、此四神の主務ハ詳ハ録セる事無  
 ハ、地水火風を稱する、此等の神の他ハ、吉斯那神、英埜兒、西多  
 神、臘黃神、葛莫達、瓦神等の諸神有て、人民と保護する事と主  
 どれりといふ、按ずるハ西域の土人奉ずる所の協ヒ、鄧教と  
 都て種種異形なる鬼神の像  
 と祀る教法の總名なるべし

猶太開闢傳第六

元始の時ハ、天地ハ先どちて神あり、耶和華といふ、大素寺景  
 阿羅訶といふ、即是と指の、其形の見べき無きまど、而も其  
 妙用又顯て見易きまバ、則見べうらざる者も見べきガ、若し

時小耶和華神、全能全智の妙力を以、創て天地萬物を造化す  
 地ハ乃虚曠小して、淵面晦冥、唯神の靈其水の面を覆育へり  
 神曰く、宜く光有べし、即光あり、神光を觀て善とし、光暗と  
 判て、光と晝と名け、暗と夜とし、因て夕あり、朝  
 宜く穹蒼有べし、水と上下小截斷分隔て、穹蒼と名て天と  
 といふ、是乃神曰く、天下の水ハ宜く一區小匯すべし、因て乾  
 る土と現せり、土と名て地といひ、水匯を海とし、按ずる  
 の古俗、海水ハ地中海の他と知ざり、神又曰く、地ハ宜く藁を  
 萌し、蔬小蒞を結び、樹小果を生し、果小核と懐し、其類と地小  
 從し、むへし、艸の蔬樹の果實地小從て生、是乃神曰く、穹蒼



小ハ宜ク列光と麗て、地と照しむべしと、即ニの巨なる耿光  
 と造出して天小懸又衆の星と造て穹蒼小置是乃神曰く水  
 中ハ宜ク滋生すべき鱗蟲と具又鳥ハ地より飛て穹蒼小  
 上上候しむべしと、鱗屬各其類小從て水中ハ充物羽族各其類  
 小從て蕃殖是乃神曰く地ハ宜く性畜昆蟲及野小走る獸と  
 生すべしと、諸獸昆蟲各其類小從て生し、諸生物畢く具まり、  
 神又曰く水中の諸魚、天空の諸鳥、地上の諸獸、昆蟲及全地を  
 理宰べき人と造べしと、神躬ら泥土と搏取、地の塵を以人と  
 造己ガ像小肖とりとし、生氣を嘘て其鼻小入き、直小靈を生  
 せしめ、名て亞當と呼之と、挈て東方の樹園なる、埃田の地小

置教碑文小曰く、阿羅漢十字を、四方を定め、元風を鼓  
 物と成て、熱して、初て人立別良神又曰く、人の獨處ハ  
 知と賜て、地海を鎮しむと、即是を指す、神又曰く、人の獨處ハ  
 未善ら、將小配偶と作て、助しむべしと、亞當と酣睡卧しめ、  
 其一の肋骨と取て、寔小肉と縫、以女と造、携て亞當小就て、夫  
 婦とす、夫婦二人裸小して、愧と知ず、神又曰く、視哉、遍く地小  
 生る、蔬實と結の菜蔬、及核と懷の樹果と、以汝等小賜て、食と  
 す、又地の獸、天空の鳥、及地を匍諸生物小至て、ハ、青草と賜て、  
 食とせしめ、とりし、是小於て、神造る所の萬物を、觀て、盡く善  
 とす、是乃是の如き、天地及其衆、匍僅小六日小して、減く備り、  
 第六日、小至て、神既小造化の工竣て、安息せり、故小一週、  
 第七日、小至て、神既小造化の工竣て、安息せり、故小一週、祝し



聖明爾の埃田の地ハ氣候融和して常ハ春の如く樹木繁茂  
 とす百果成熟し清泉流出て園ハ灌ぎ涼き蔭美景を益美麗清潔  
 ならしむ始祖夫婦此樂土ハ在て優遊自適して歲月を送り  
 無疆至純の善を受とり時ハ神曰く園中の百果ハ汝等意ハ  
 任て皆食べし獨善惡を別の樹ハ果と結ぶ此樹ハ捫なりき  
 此果を食なりき若食ハ必ず死すべし故ハ夫婦少時此禁  
 戒を守らば常ハ其憩息處の一大樹の枝ハ一の蛇回繞へり  
 神の造る諸生物の中ハ蛇より狡なるハ無ハ蛇婦ハ曰く善  
 惡を別の樹果ハ之を食とも必ず死せず還て汝が眼を明ハ  
 して神の若く能善惡を別べし婦遂ハ蛇の爲ハ誘惑され

往て其樹を視ハ食べく慕べくして能智慧を益せし遂ハ其  
 果と摘て食並ハ亞當ハ與るハ亞當亦食二人の眼即明ハ  
 始て身の裸なると愧て無花果樹の葉を編て裳とす二人又  
 既ハ罪を犯せしと知て身と匿ハ神と避て敢て見ハ神之を  
 譴罪するハ蛇と將て婦の仇とし婦ハ子と胎産の艱苦と  
 受しめ名て夏娃と呼以天下羣生の母とし亞當ハ畢生身  
 と労働せざれば飢寒の憂を免ざしめ罪を子孫後裔ハ暨  
 せり神又獸の皮を衣として夫婦ハ賜ハ遂ハ埃田の樂園と  
 逐出ハ焰劍と舞旋して以生命の樹の途を斷防り是より  
 亞當夏娃ハ不朽不死の幸福と有能す始て老病痛苦の患と



受て、死シ凶キウ齊サイ打ウチする身ミとなまきり、是コト小コト於オケて亞ア當ダウ自ミら獸ケモノの骨ハネと拾ヒキ取リて、田イハと耕カキす器ツクリと作り、木キ葉ハと覆フクて草クサ屋ヤを作り、夫ツル婦メ室ムロとト同ト小コトして、二ニ子コを生ナ育ヤす長ナガと加カ印インといひ、次ツギと亞ア伯ハクといへり、亞ア伯ハクハ羊ヒツと牧カヒ、加カ印インハ田イハと耕カキ、土ツチ産ウツと以モツテ神カミ小コト献カヒす、亞ア伯ハクハ首カウ生ナの羊ヒツ及其シテ脂シ膏カウと献カヒす、神カミ亞ア伯ハクの祭マツルと飲カヒて、加カ印インの祭マツルと飲カヒす、加カ印イン怨ウラ嫉ヤクと以モツテ第ツギ亞ア伯ハクと田イハ間マ小コト擊ウチ殺コロす、故ユヘ小コト神カミの放ハル逐ツクと受ウケて、其コノ妻メと共ト小コト漂ウラ泊ボクして、後ノチ小コト挪ノ得ドの地チ小コト居スて、畢ヒツ生セと艱ケン苦ク小コト終ハシまリ、因ユヘて加カ印インの子コ孫ソとト呼コトび、人ヒト子コ裔イといひ、時トキ小コト神カミ不フ幸コウの亞ア當ダウと憐アハレて、第ツギ三サン子コと賜タマふ、名ナて設セツ多トといひ、設セツ多トハ常トコ小コト情セイ欲ヨクと制セムして甚シと恭キョウ謹キンと盡ツクす、故ユヘ小コト神カミの慈ニギ愛アイと被カヒまリ、因ユヘて設セツ多トの子コ孫ソハ神カミの賜タマなるトと以モツテ神カミ子コ裔イと稱ナヅケす、即ツキ神カミの後ノチと

いふ、爾ノチ後ノチ星ホシ霜シユウと登ノボり、從ツキて、人ヒト類レイ甚シと多ク、時トキ小コト神カミ子コの裔イ、設セツ多ト人ヒト子コの女メ子コ孫ソと見ミて、美ウツクと人ヒト之ノと娶ウケて子コを生ナふ、乃ス英エ雄ユウ多ク、古コノの聲コエ名ナあリ、器ツクリ械ケの發ハツ明メイ者モノ等トといひ、人ヒト民タタ漸シと機キ智チと生ナふ、淳ジュン朴ポクの風カゼと失ウシひ、心ココロ術ジュツの破クサ壞クサ晝ヒル夜ヨ小コト甚シと、神カミと輕カサて罪ツミ小コト陷クサと覺サトらズ、神カミ人ヒト民タタの惡アク貫スき盈トコを見ミて、大ダイ洪コウ水スイと起タり、血チ肉ニクあリ、諸シヨ生物セイブツと盡ツク滅メツせむと欲ホシす、此コノの如ゴトき末マツ期キ小コト當タウて、其コノ性セイ善ゼン良リヤウ正セイ直チツなる者モノあリ、名ナと挪ノ亞アといひ、最モトも神カミの慈ニギ愛アイと獲トクふ、故ユヘ小コト神カミの命イハ小コト遵スて、松マツの木キと剗キリ瀝リキ青セイと塗マシて、亞ア爾ニ克キツといひ、大ダイなる三サン層ソウの画エ船センと造ツクリ營エイ、其コノ妻メ子コ及シテ子コの婦メと率スベテ、又マタ所シヨ有ユの食シ品ヒン及シテ家カ畜キヨクと携ヒキて、共ト小コト此コノ画エ船セン小コト兼ケン容ヨウ、是コトより七シチ日ニチ小コトして、大ダイ淵エンの源ゲン潰ツク



天際破きて、大雨暴小降四十晝夜と連て、休期無し、怒浪地小  
 溢き、狂瀾天を蹴て、高山の頂ハ水底小沉没し、萬里茫洋とな  
 き久實小是天地創世より一千六百五十六年小して、凡て地  
 上小生活する諸生物ハ、挪亞小就る者と除の外盡く水中小  
 蕩凶て、子遺無し、一百五十日小して、風吹て水平ぎ、淵源塞ぎ、  
 天際縫て、雨全く息水漸く退て、後七十日小逮て、山の峯始て  
 現る、挪亞の匣船ハ、波小漂て、亞爾美尼亞國の亞拉臘多山の  
 上小留る、船中小籠居こと三百六十五日小して、水涸地乾く、  
 挪亞家族と偕て、匣船を出天を祭て神小謝す、此時天初て晴、  
 神雲中小虹霓を現し、挪亞及家族を祝し、是血屬を以全地界

人種の第二祖とし、復洪水を以血氣ある者を滅せずと、虹を  
 徴して永世約を立の證とす、爾後挪亞ハ膏沃の土地を掄て  
 東小徙久示拿の平原を開拓して、其三子閃、罕、雅弗と共小住  
 居せり、其子孫漸小蔓衍て、遂小國內陝隘して、偕小住難く、且  
 其生業の道と求ぐ爲小各散居せむとする小至て、彼此互小  
 議して曰く、天小登る高大塔を築、其頂小邑里を建て、水災の  
 證を永世小傳て、以吾儕の名を揚べしと、此示拿の地小於て、  
 大小土木の工を興し、高臺を築て、漸く數十層を造營し、殆ど  
 天際を窮むとする小逮て、神其傲慢の志を憎み、人の言語を  
 混亂して、相通せざらしむ、大初の時より天下の口音ハ、唯一



列國言語を各異にする始なりとす世の其蓋と繋ぐる邑を  
呼て巴別といふ即言語混雜して相辨する能ざるの義なり  
是は於て衆庶大に紛雜して工をなす能ず遂に其望を止て  
天下に散居して邑里を建ふ閃の苗裔は東方に蕃殖し罕の  
苗裔は西南に蕃殖し雅弗の苗裔は西北に蕃殖して遂に全  
世界に充滿するに因て列國の地をなせり

埃及開闢傳第七

上古の時ハ唯一物も無して空に粲然とる光有のこ此光を  
稱してバカ西トといふ即無形の一眞神なり或ハ曰く其初  
傑以布と稱する神在て口中より一の卵を吐りり全世界ハ  
此卵の中より生るる故に傑以布神を世界開基の始祖とす

其像ハ巨大にして手掌の一の卵を捧る形なりといふ然し  
此卵を中より割とる大勢力の神の名を布跋夫と稱せり此  
神ハ天地の造物主にして其像ハ亞弗士牛の如し亞弗士ハ  
埃及の古俗強カなる者ハ牡牛小勝まると又布跋夫神の配偶  
者なりと思へる故に是を以て神徳を示す又布跋夫神の配偶  
小紀屈多といふ女神あり其像猫の如し古俗ハ猫小勝敬す  
なりと次ハ阿西リスといふ尊神在て世界地上を經營して  
海と案山と積金石草木等と生育せしめて後ハ天に昇て鎮  
座せり阿西リスハ埃及神教の眞神にして天地の位既小定  
て後ハ塞威列といふ女神あり或ハ饑兎神天と父と地と  
母として生るる鎮座加接するに阿西リスの正妃と成て有形なる大



小の諸神と産出せり形小して以下之神と血肉ある者とす  
 故小此女神と號して神母とす且天下の諸獸も皆此  
 神母の聲音氣息小因て生する所なり其神像美麗柔和て  
 頭小寶冠を載き手小一の鎖鎰を把持て百花を以衣服とし  
 諸獸恒小神母の傍を圍繞て離ずといふ神母或ハ時として  
 寶車小乗四の獅子を驅役して之を牽りめ滿天下を周游し  
 て人民小幸福を施與せり又阿西カス神の子と摩洛といふ  
 即大陽日神なり此神生質小威靈赫赫とる神徳を具有して  
 氏噴といふ惡神と殺せり故小土俗阿西カス神小繼或ハ傳  
 小曰く上古の世小氏噴といふ一の巨人有て其婦と厄多那

と名く其像半身ハ女小して半身ハ蛇形なり其生所の第一  
 子なる舌爾伯盧士といふ者ハ三の頭小三の喙有狗小して  
 恒小地獄の門戸小守て惡人の靈魂地獄小墮る者ある時ハ  
 直小之と啗喰といふ其兄弟小哈達拉思呂流拿鬼幾默拉思  
 尼諾諳鬼等の諸子あり皆異類異様の妖魔小して世小禍災  
 を布ものなりといふ又摩洛神大陽の妹と亞私踰兒兌女神と  
 名く此神ハ月の神なり其弟と亞獨尼士神と名く此ハ火の  
 神なり其妹と易責士女神と名く此ハ水の神なりと言傳ふ  
 又人民の始祖ハ阿西カス神の末裔小して名ハ墨尼斯とい  
 へる者なりとぞ



希臘開闢傳第八

結て宇宙の閔の諸頭象ハ、日月衆星及泰初の世ハ衆多の神  
 出て之を造化せり其最も古き神と於呢瘴士といふ即天王  
 此神ハ地神名ハの夫小して薩俞朗の父なり薩俞朗ハ或ハ  
 土其子入必德爾の爲小天上の帝座を逐退らき初て世界小  
 降て以大利國小鎮座して往古の土人小耕作及其他日用生  
 業の技術を教ふる神なりといふ入必德爾ハ歳星或迷廬古  
 惟且譯して乳道の義謂ゆる銀河を指て天上の樂界なりとす  
 加藍哥西といふ俗小ハ本希臘語より轉小在て宇宙閔の禍福を  
 主宰する無極最上至尊至貴の眞神なり謂ゆる上帝天主大  
 君大父の類なり

其像ハ甚と威靈を表し容貌頗る尊嚴なり左手小矛を提げ  
 右手小電光と握て金光の鷲小御き久傳小ハ此神常小黒色  
 の鶴と以使者とせりといふ又入必德爾の兄弟小海神あり  
 聶段と名く即海王星をり世界大小の江海を司どき久其像或ハ女  
 の如小して海馬小騎て半身ハ水上小浮び手小一の怪キ  
 魚銛の如き矛と把きり又聶段の兄弟小山の神あり支命と  
 名く其像半身ハ人小して半身ハ馬なり是を奈何と問小此  
 神ハ常小好て馬小騎弓箭を狹て高山小登諸の藥草を試て  
 其性の主治功能を區別せし上古の鑿祖小して且新て天象  
 地理の諸學を開き後小天小昇て十二宮中の人馬宮と成る



故小是の如き像と圖すといふ又薩侖朗の女小噁厘士あり  
 穀星世小是と農神と稱せりサキス 靴既士といふ神と共トモ 父の勞  
 と輔て上世小耕農の業と人民小教授カシコケ たりといふ其靴既士  
 なる者ハ入必德爾の子小して其像肥ウツクミ たる小兒の如し傳小  
 い小靴既士ハ昔より酒を釀す事と護マモ くる故小世小稱して  
 酒の神なりとす或ハ傳ハハ 神ハ非ト 埜ノ 士シ 土ツ 田ノ 野ノ を守護する事又入必  
 德爾の女小珠那シラ といふあり或ハ諭諾と名 其像美麗なる  
 女神小して額上小新月を載き左右の掌小弓箭と把一匹の  
 獵犬と牽ヒキ たり世小是と獵神と稱す此神ハ専ら月を司ツカ する  
 と雖モ 神通廣大なる故小一神小して三の名號あり天上小

在てハ麻俺マア 月輪ツキ と現ウ 世セ 界カイ 小於てハ珠那シラ と號ナ け地獄ジゴク 小ハ  
 彼噶ヘカ 的テ と稱す傳ツタ へ小此神夜每天より降ク して其尊信ウツクミ する者小  
 幸福クフコク と賜タマ へ因ユ て世小之と祀者多し又入必德爾の子小して  
 其神德威靈父トクイレイフ 小等ヒト 一ヒト き尊神と巴必亞波バビヤハ 崙ラ と稱す此神常小  
 天不在アメナ 在ア 赫カク 赫カク とる大陽オホヒ と司ツカ ぐれり故小日神とす傳小曰く  
 上古の時小比ヒ 艷イ といふ毒蛇ヘビ 惡神有て世界小災害アザ せり日神  
 之と斬殺キレ すと就中其戦利ありざり一時小當て亞波崙バハ 濼ク ぎ  
 崙窟イソク の洞小籠カゴ て光と没し世界と黑夜クニヤミ 小せし事ありといふ  
 其舊蹟コノコト ハ巴拿バナ 瑣サ 山のヤマ 神カミ なる特爾トクニ 斐ヒ の崙窟イソク 又日神の兄弟小  
 なりとて方今イマ 尚ナカ 其處コノトコロ 小其神廟カミノミヤ と存ツク せり  
 邈トシ 玖理ク あり辰星或 此神ハ飛行の術殊小勝マカ する故小諸天の



神使を務とし、且言語及商賣の事と司どり、或ハ盜賊と防り  
其掌どり小いて、多能なる神なり、傳ふ曰く、邀玖理初て亞發  
伯土の文字を製て、人民小教授とりといふ、又其兄弟小比紐  
斯といふ女神あり、太白金星なり、此神ハ専ら世の愛憐、歡樂、美麗、清  
潔等の事と掌どまり、又瑪爾斯といふ軍神あり、熒惑火  
星なり、其像  
甲冑を着いて、楯と矛とを携て、馬車小駕せり、此神ハ専ら戰  
鬪の事と掌どりて、神威最も熾なり、故小之不逆者ハ、必ず殛  
罰と蒙とせり、希臘の古俗ハ、皆戰爭と以本務とし、勇猛と以  
する者多し、按ずる小日本、近古の武士、謂ゆ、瑪爾斯の神と稱  
陽炎の義然らば、火星又入必德爾の女小美納威といふあり、  
なるも疑なかるべし

十二宮中の白羊宮小配す、美納威ハ最も材智の勝る女神  
小いて、若國家小大事ある時ハ、父の腦中より、能數萬の軍兵  
と出すといふ、是又軍神、又隈倪里神ハ、法律と主どり、刺列神  
弊那說神ハ、共小竈を守る神なりといふ、其他天上小象くる、  
百有餘の小行星等皆之小配する小神の名稱を以て、故舉す  
あり、ざれハ以上是の如き大小の諸神在て、此世界國土と創  
造せりといふ、又上世の半神勇士なる者ハ、異形の怪物及猛  
獸小勝てり、其非常力及踔絶の能最も著明のハ、入必德爾  
の苗裔小希爾孤勒といふあり、希爾孤勒ハ大威能力ある者  
小て、直小異形の怪物及兇惡の猛獸と驅て、國界と定、沼澤と



埋て、且額列翁及加屈士といふ不測の海賊を誅伐して、希臘諸王族の曩祖となきり、傳ふ曰く希爾孤勒ハ山の如小材を積て、之と焚自ら火中不投て、燒死て遂不地獄不到きり、其後入必德爾神希爾孤勒を招て、天不昇らせ神と化て、不朽不老たり、めりといふ方今地中海と稱するハ亞細亞買諾より日巴拉大の峽門不達する閉なり、其日巴拉大と、往古ハ希爾孤勒の峽門と稱し、一種の崑石あり、名て希爾孤勒の天柱といふ、此天柱ハ土世の希爾孤勒往古の人ハ、此天柱を以、全世界の西の端なりと思て、是より外不出る路無とせり、一時不非尼西人商船と此天柱の外不出、茫渺とる大洋中と航行む

と欲し帆を開て、此海門を發せし、其船既天柱の北方不  
到きハ、海水直不粘滑て膠の如く、又葭荻の類なる海草の濕潤  
小して且強硬き物、多く水中不聳立て、船の通行と阻碍す、  
此時不至てハ、船ハ波濤不旋回されて、方角と定まらず進退の  
路と失ひ、唯破壊る、覆没と待の外ハ策無といふ、

古史略論第九

以上八紀開闢の傳、曷ぞ焉不盡せりとせむや、然と雖も余輩  
見聞する事の狭き如何とゆする能ず、或ハ古史の缺て、其  
傳と喪ふあり、巴比倫の史、弗尼西、或ハ其國の古傳存べきと  
雖も、未之と聞ざるあり、特し其傳を喪とるハ、強て之が説と







怪誕小有ざるハ無シ蓋矇昧の世未文字歲月あり故小其  
間幾千年と經るや得て詳小考べうる或唯當初大なる事  
件ある時ハ人民之と口碑の流傳る已なれば其久きと經小  
及て或ハ轉誤する故事り多うるべし然して文字と用る小  
至て始て之と書小筆すと雖も是又其記者の意小て文飾と  
加るより益其事實と夫小因て概夫荒唐怪誕の奇說小陷る  
事小して更小之と異む小足ざるなり然ハ開闢の初ハ慥小  
知べうる固より人智の能窮べき小有さると以人類の地  
球上小生ると創とも詳小する能く各國の古史小據て古小  
溯る時ハ其說詳明ならずと雖も其初ハ大略四千有餘年の

古小達するを得べし其以前小於てハ渺茫の洋と望が如く  
氤氳の霧と跼る如くて決小之と知べうる然しも其初ハ  
既小人民の久く各地小棲息とるハ疑無きむ但此民其交通  
する所甚だと狹と以て已に一族の餘ハ迭小他の人民有と知らず  
故小各國の古史大抵皆自國と以人類の基源とし世界の宗  
國と思て開闢の後小於て一對の男女地上小降生し是より  
人類始て蕃殖し漸く後小至て他國も此人類の爲小開闢小  
赴る者と說ふこと恰も符節と合はるが如し是と以人類の創り  
生る地ハ各國孰も先孰も後とると知べうる然して其  
證とすべき者ハ古今各地を發見する毎小必ず野蠻の既小



其地ハ住居する有て、其風俗ハ真ハ太古混沌の世と觀グ如  
 小して、其民毫も知覺ありず唯男女の情と饑て食と求との  
 二事と知小過ず、文字も無く、甲子も無く、其地の古より今ハ  
 由來する、年月の得て考べき憑據無、倘此の如小して變ぜ  
 ざる時ハ、數百年の後ハ至と雖も、蠢爾て猶數千年前の世と、  
 異なる無るべし、是と以熟四千年前の上古小沂、條理ハ就  
 て、當初世界の景況と憶測て觀小、地球上僅小三四の地方ハ  
 於て、人民已小開化ハ赴き、現小邦國を開て、都府と建設さる  
 者あり、支那、印度、猶太、巴比倫、弗尼、西埃及の如き是なり、抑此  
 各地ハ、當時皆已小文物盛小して、人閑實用の事物と許多發

明せり、然ども其四周ハ、皆混沌矇昧の世小して、未道路開ず、  
 故小東西互小其國有と知ざりしハ、此數國より開化の氣運、  
 漸次小其隣國ハ波及さる者なるべし、

教法略論第十

各國開闢の傳と説小、各同うらずと雖も、其天と宗とするハ  
 於てハ、一轍小出ガ如ク、抑天ハ萬物の上小在て、至大至高、其  
 象杳冥小して測べり、又尊嚴之小過さる者無ればなり、  
 故小人事の智覺毫も開ざる蠢愚の野蠻と雖も、其視處より  
 感して、此小神有と想像し、之と敬祭せざるハ無し、是教法の  
 由來する淵源小して、其濫觴甚と遠とす、凡て地上、苟も人在



時ハ此ノ教法あり蓋其初ハ皆單一なりと雖も由來するの  
久きより數種の祭儀を生し其中ノ書と著し説と立人民を  
化導する爲め遂ハ一種の教法を開者あり復之と看破して  
別ハ一派と分て自説と張者あるハ縁て終ハ其種類の多ハ  
至れり然ども是皆其時勢ハ循ハ其人情と對て教と立法と  
説人民と導て心志の歸する所と安す是を以兇暴の風俗を  
悛め善と勸て惡と懲す當初人事の未開なる世ハ於て實ハ  
大利益有とす故ハ一時ハ波及して終ハ普通の説となれり  
而して其教法ハ古と榮とし今と辱しめ未開の愚と求己開  
の賢と厭ハ強て之ハ由一のむとすると以其勢自ら空理ハ

墜て人心と束縛するハ至る且法久して弊生するハ皆其然  
ざると得ず嗣て法と傳る者ハ必す之と自家の私有とし永  
擁て失ざると要すると以専ら人閑ハ實用の學術と講ると  
阻げ人智と昏し世態と損ハ皆其弊の常なりとす然ハ各國  
の人民多ハ無識ハして之と悟ず今日ハ至て尚古法の糟粕  
ハ滿醉するハ懲べきの甚しきなり夫未開の世ハ行まると  
古法ハ一時之を可とすれど永く固守すべからざる證あり  
道家の昆崙梵氏の須彌の類皆其教規ハ於て普通の説なり  
と雖も今日實驗測量の上ハ断然地球なるハ萬人の能知  
所なり且耶穌教及其餘の諸教も皆地球説ハ非ず故ハ當初



行れとる普通の説も今日お於て固守すべしとざる者有と  
知べし凡て宇宙の萬事其起初ハ草略にして後來漸く全備  
する是必然の理なり人智の日お開進する豈獨然ならむや  
然し教法家會て世學の開進するお注意せよ今既し陳腐し  
屬する空論と談し未開の古法と講明するお苦し實し其道  
と得ざる者お有ざるなり 余輩お竊し教法家の爲し之と取  
今日人智既し開て世學更し進み天下舉て文明の運と發の  
際し當て徒し未開の古法と固守すると以可とせむや活然  
大悟する有し宜し空理奇怪の説と廢斥し實用適宜の學と  
配合し大し教規と變革して以其弊を一掃せざるべしとす

然ざれば教法なる者ハ徒し人閑し無用の長物耳なり亦及  
て智と昧し愚と益の害物なるべし但實用適宜の學とハ何  
ぞや理學是なり夫理學の實用効驗ある敢て彼空理奇怪と  
唱て古より今お及まで人民の德行と超越せしめたる効驗  
と見ざる類し非ず今此し教法家の爲し聊忠告する説あり  
中世の頃西洋お於て熾し教法の行る時ハ上下皆空理し  
泥て人閑實用の學術頓し湮没し教官權威と擅しして兇暴  
頑陋の風俗と醸成し此が爲し終し教法の異同を生し其宗  
論し係て兵亂と起し無辜の人民と虐殺せる其數を知らず世  
運日し衰へ國勢月し弱し之と西洋の黑暗世と名し然し理



學の真光初て以大利小閃發、才小其鄰國と漏射せしよ久  
教法漸く勢と感め、其後各國の人民争て理學小赴き、切瑳の  
實功を奏する小及て、國勢更小挽回、文明開化今日の隆盛  
と極る小至まり、而して教法ハ荏苒小萎靡、日を計て其頽  
廢するを待小至る、故小教官及て人智の開進を恨り、是小  
由て之と觀バ、教法と理學と、其反對する殆ど仇敵の如し、雖  
も、其實ハ然らず、夫神ハ道と自然、小法久無爲小して化、小無言  
小して治め、以萬物生育の偉功を主宰す、教法ハ固より其神  
徳と奉ずる者なりと雖も、偏小之小泥み、怠惰小して、人閑の  
條理と盡さず、永く古法を固守し、生育の道小背き、其初位小

坐して足とするを以、神之と可とせむや、況や神ハ公平小  
て私曲非ず、焉ぞ已小阿諛する者耳と寵愛し、萬民の塗炭小  
陥り、國勢の衰弱するを省ざるの理有むや、竊小知る、此ハ神  
其教法の弊と厭が故小之小易る小理學を以せり、憶小理學  
ハ造化の妙機と窺べき、最勝真正の神學なりとす、是を以教  
法の規矩とする、當然の理と謂べし、然り、而して古法の百弊  
地を掃て泯滅する疑無りむ、余輩嘗て聞、大道ハ邦國小限ず  
至理ハ中外小通すべしと、斯空理を固守せず、心志を束縛せ  
ず、實理を討尋し、智識を擴充し、唯條理小沿て人倫の正理を  
全うし、造化の偉勳を講明するを以專務とせば、恐ハ



之と世界未發の大道教法と稱すべきなり此小於て告諭小  
謂ゆる彼此の頑見と破り、海内一家皇政と翼賛し、此教法と  
して遠く海外小光被せしむといふ域小至る豈難とせむや  
願てくハ當路の教官精神と鎮静して思慮と公平小、事理  
の正邪と用捨して、世俗の毀譽小眩惑せず又瑣細の小事小  
關係するを須ず、唯心頭小善人善士と捏出すを以、其宗旨と  
する時ハ、大過無小庶幾うらむ乎、

天文略説第十一

渾て宇宙の事務ハ、理學と外小して謂べき者無し、故小諸學  
先道と之小求て規範とし、其秘蘊と極て、後小之と擴充して、

各其所好小趣バ、本末分明小して、進退意小隨ひ、條理井然と  
して、壅閼の患有こと無り、然る而して其天學の一科とる、  
謙小格物窮理の首務なりとす、夫道の大原ハ天小出とり、然  
ときハ、天體の實理知さるべうら、孰り敢て天と談するを  
謂て迂遠なりとせむや、仰て蒼茫とる大虚と視小、空濶小  
て盡際無く、清澄小して至虚なる若し、雖も、粵小靈妙不測の  
神氣充實して、屈伸變化息期無し、氣屈バ剛し、之と體といふ  
氣伸バ柔なり、之と空といふ、體ハ常小空の裡小包を圓して  
球の如し、之と星といふ、星小光體暗體の二種あり、彼太陽の  
如と光體とし、地球の如と暗體とす、吾地球の大なる其直徑



三千二百四十七里法三十六町を以一周圍一萬零百九十三里とす以下皆同ト周圍一萬零百九十三里餘なりと雖も地球ハ屬小太陽光明の耀く内小在一個の暗體ホ一して、且其大なる者小非ず其大なるハ木星ホ一して、其體中小能地球一千四百と容べく、其次なる土星ハ、九百個の地球を容べし、是の如き諸暗體大小其數八十有餘有とす此積と一塊とすと雖も、太陽の積五百分の一小及ず太陽の直徑三十六萬零百五十里ホ一して、其體中小能一百五十萬倍の地球を容る、然バ太陽の至大なる實小駭べしと雖も、恒星天ホ一して之を視バ、唯一點の螢火の如し、彼恒星の最小き者も、其積宛も太陽小比すべし、其大なる者小至てハ太陽小過る

數十萬倍なる者あり此大小無數の恒星ハ皆太陽と同種の光體ホ一して、太陽も亦太虚中小在一個の恒星なり而して秋冬、清朗の夜東北より西南小向て、全天と一周する浮雲の如光帶あり之と天河と名く、古ハ之と一種の光氣とせり、近世望遠鏡出て、是無數の小恒星、一處小簇聚して、此象と成ると知より、既小天河の一界と測算する小、其數當小二千零十九萬一千有餘の星點あり、設小其一星と一太陽と、各五十の暗體之小附屬すんせば、暗體の數八十億零九百五十五萬有べし、而も其暗體の中毎小必ず山岳江海其面小凹凸、人畜草木其間小生死する、共小吾地球の如なるべし、此天河及恒



星吾頂太陽統て視處の數千萬億の星點と合同一塊として、  
極大不測の一大圓球を成す之と星團といふ、天河ハ其面を  
一線小帶の如く繞まり而して更小精巧の望遠鏡を以之を  
測驗する小豈圖むや、天河も亦盡界有て、太虚小佈滿する小  
非亦尚其界外小又無數の星團有と知小至て、既小之を測算  
せり小其大さ或ハ大陰の十分の一程小見べき者方今其數  
凡六千有餘あり、意小其中必ず吾星團より大なる小有べし、  
初ハ學者界外の星團を疑て、未星と成ざる質とせし、ガ羅斯  
伯の大望遠鏡出小至て始て之を氷解し、復更小其餘無數の  
星團を望小、唯氣の如と覺れど、未星の聚る者久否やと辨

する能ざるあり、故小暫く之を星氣と名く、但肉眼を以此星  
氣を視バ、塵小一點の淡白色なる霧氣の如と雖も、大望遠鏡  
を以之を測驗する小、其本質大抵吾星團小相似とる者あり、  
或ハ自光の氣を以漸く凝結して、太陽若ハ暗體の如き星の  
象小成むとする者あり、或ハ未敢て凝結する景状無者あり、  
蓋其距離極遠の處小至てハ、大望遠鏡と雖も見難して之を  
何とも決する能ざる者あり、此等の星氣小、吾星團等の者と  
加て、之を普天と名け、或ハ之を星林といふ、設小不日大望遠  
鏡の製式更小精妙を加る小至バ、今視處の者ハ能辨る小至  
べし、雖も恐ハ其時又無數の遠星氣を視て、仍終小辨る



能ざるべし抑以上の説と概略する小其始ハ地球の如き諸  
 暗體を以之と大陽小属し聯て一體とし又無數の太陽即恒  
 星及  
 天河と團欒し再聯て一體とし之と星團とす今又星團と星  
 氣とと觀ふ其理同一なれば不日必ず無數の星氣と之小聯  
 合して又一體とすべし是の如く逸小累推せば愈大小至て  
 愈窮る無し民能名る處無りむ偉なる哉造化の工や大小  
 て外無小至り小小して内無小至る而も至微の者と雖も流  
 臨せざるハ固く鑒察せざるハ莫し且其精奇神妙も又此小  
 至る眞小思議すへう小ざるなり然ども天象小憑て今之と  
 想像する小太虚の元氣其初ハ時有て攝力と生し中央小近

して最密小凝聚し重心と生して能極大不測の星氣と成後  
 久して球形の小體無數と成小至て其小體毎小各攝力あり  
 又重心あり終小散して星と成各の攝力と以一端其中央と  
 離し雖も星毎小其攝力の限有て各體の重心共小平均する  
 處の中央なる一點の公重心と遠く離る能ず故小亦其本の  
 公重心と旋轉して星團と成きり夫攝力の理ハ中央小強く  
 外面小漸く弱し設小此小體其中央と繞の行無時ハ必ず中  
 央と離る力無し是を以星氣の状ハ中央小して光氣密小其  
 周邊ハ粗なり喻バ遠く玻璃燈を望如し若又其中央と繞の  
 行有時ハ必ず中央と離る力あり是を以星團の形ハ星氣小



又、中央ハ光氣粗小して、其周邊の密なる、恰ル金環の如し、  
 而して彼光體なる者、其本恐くハ流體なり、ハ其始凝結て  
 暗體と成、其次ハ不測の由來有て、光體ハ變化し、更ハ新太陽  
 と現出せし者なるべし、又吾地球の如も、大初の時ハ其本吾  
 太陽と共ハ一塊の流體なり、其重心と旋轉せし間ハ一  
 區別と分て一の沫と成、又更ハ重心を生し、飛て太虚ハ散去  
 攝力の法ハ藉て球形を作り、終ハ乾て實體堅固の質と成し  
 者なるべし、人皆地上ハ在てハ之と近似する事の多と以、今  
 之と甚ど淳樸の説と思べられど、其人の眼ハ斯淳樸の事ハ  
 見るも、此よりして造化の諸法と創め、諸物質と造するカの

廣大無邊なるを見、小足べし、設ハ人若、小量の水を取て、自ら  
 形と作と支ざれば、水液の如き、分子中ハ凝聚カ有者ハ必ず  
 自ら球形と結べし、是の如く水の滴と作と見て、造化の妙用  
 亦斯る法と以、諸物質と造る者と了解すべきなり、

理學略説第十二

太虚ハ靈妙の神氣あり、名て越歴といふ、古謂ゆる元氣是已、  
 其質とる、動靜聚散時ハ立て改易し、以攝力の本源と發生す  
 其散する時ハ静小して密小藏る、之と越歴の定度と得る  
 常なりとす、又動て聚る時ハ倏忽過不足と生し、其定度と失  
 以不測の變と發す、但其實ハ定度の平均と喻バ、越歴此ハ増



積て、其定度小過する極と陽といひ、彼小減消て、不足する  
極と陰といふ、故小陰の陽小合へ和なり、和せば引て離さず  
是引力の因て生ずる所以なり、又陽と陽、又陰と陰、斯同類の  
合と犯とす、犯せば之と衝て必ず離さしむ、是張力の因て生  
ずる所以なり、陰陽既小成て或ハ衝、或ハ引て、離合變化の極  
無く、以萬物の創と造る、故小越歴ハ物として有ざるハ無く、  
時として然ざるハ無く、其理甚ど奥妙なりとす、但引力とハ  
物と物と相互小引合する力といふ、宇宙の萬物、此力の有ハ  
因テ、各其形を成り、若此力無バ萬物壅粉と成て散亂すべし、  
又張力ハ、引力と其理反對小して、宇宙若引力の有て、張力

無バ、天地萬物皆一塊と成て、人畜草木共小生存する能ざる  
なり、故小此引張の二カハ、創造の首小有て、屈伸小動靜聚散  
互小其用を作り、是乃造化妙機の一規則なり、而して越歴  
其動や光と成、其聚や契と成、空小憑て體を結び、復其光契の  
爲小、自ら變化し、以元素幾何を産出す、但光と契とハ常小相  
誘て並行き、理を同じて、物を異小す、光ハ動て白し、靜て黒し、  
契ハ動て熱し、靜て寒し、而して光聚バ契を生、契聚バ光を生、  
共小其理を越歴小歸す、故小總て物の離合變化する所以の  
理ハ、皆是越歴と光と契との三輕質の所致小係る、此三輕質  
ハ、遍く物小沁入て、或ハ隱き、或ハ顯き、物をして性と易形を



變せしむ既ハ之有て、後ハ萬物創て其形と成せ久故ハ三輕  
 質ハ共ハ無形の極ハ處ト以有形の始ハ位す夫一切有形の  
 物質とる、其實ハ無數の分子、相聚結合して其形と成者なり  
 蓋分子の至微なる目固より見べうらざるハ至と雖も今日  
 化學の力と以、或ハ二三ハ分離すべきあり、其一ハ化學の  
 力と雖も、敢て分離すべうらざる質有て之と元素といハ其  
 數方今六十有餘有とす、元素の質とる煉化して竭大運行し  
 て息吹之と合して形と成し、之と離て元ハ歸す、宇宙の萬物  
 皆此元素より生成して、其形各異なりと雖も、之と大略して、  
 實體、山岳金石草流體、油水虛體、空氣蒸氣の三重物とす、其物  
木人畜の類

質の如き皆中和の勢と稟賦するハ係る、故ハ勢過て亂る、  
 時ハ物敗て其質殆ど無ガ如シ、但勢ハ中和ハ引カ生ハ  
 過て亂て張力の本源となふ、是と以張力の勝とる者と虚體  
 とハ引力の勝とる者と實體とハ其引カ張カ互ハ勝劣無ハ  
 相平均する者と流體とす、故ハ三重物、其形と變化する時ハ  
 必ず勢の増減あり、設ハ虚體の勢減すまハ流體と成、流體の  
 勢減すまハ實體と成、其實體ハ勢増ときハ流體と成、流體ハ  
 勢増ときハ虚體となふ物として理の然ざるハ無人、是と以  
 知る、凡て物の初ハ必ず虚體の氣なるべき事、曾て此ハ疑と  
 容ざるなり、世の人多ハ皆目の見べきと物と想て見べうら



ざるを氣と思へり夫宇宙の内ハ氣より化して物とな久物  
 より化して復氣となる物成物敗るハ造化の一規則あるハ  
 因て然久而して其實ハ氣ハ物ハ其原ハ同一體にして曾て  
 其質と滅する能ず人自ら氣ハ化せしと以物ハ完し盡るし  
 するハ唯目の力之と見ハ及ざるのミ宇宙の氣ハ太初の時  
 よ久古今ハ絡繹して未敢て至微の一分子ハ増減ありず是  
 謂ゆる造化の無盡藏なる者なり人苟ハ物ハ遇ハ必ず以其  
 理ヲ求め理ハ遇ハ必ず以其極ヲ窮る時ハ今日奇怪とする  
 發象の本源と求て能其變化の道ハ通する已ならず是と以  
 巨大なる至眞の神功と稱するハ至べき歟

附録備考第十三

以上論說四章を述て之を開闢傳ハ尾續ハ以萬國の初發と  
 想像せしむる事既ハ然久但余ハ意ハ古史ハ易ハ天文と  
 以ハ教法ハ易ハ理學と以するハあり而して復之を補綴  
 較略ハ條理所出の備考を附録す夫神ハ無形ハ有形ハ  
 非ハ既ハ有形なれば神ハ非ハ有形にして物なり然と雖も無形も  
 動時ハ當ハ有形なるガ如ク増極あり減極あり之ハ一靜を  
 加て是と造化の眞主と稱す乃其實ハ單一なりと雖も唯單  
 一なる時ハ冥黙と靜然の一氣にして以造化と稱すべき  
 理あり夫道ハ無より始て有ハ化ハ數ハ終る有ハ即數の



一なり一ハ動て増減の二と生ず謂ゆる陰陽是なり二ハ相  
 持拍して終小中庸と生し以三と成る三ハ虛流實の三體小  
 して即萬物是なり物の形體と成至大ハ普天星團より至微  
 ハ分子元素小至まで其球圓なる固より論と待すと雖も其  
 動時ハ旋轉して彼此互小相攝し各物小各量有て輕重各同  
 う小其中心小向ふ力の大小ハ必ず其質積と正比例あり  
 故小各物其中心と距の平方と反比例と生して自然小其平  
 均する所の公重心と旋轉せり此理小繇て各物旋進の行路  
 ハ必ず橢圓の形状と作る是各國の古史小雞卵の説の因て  
 生する所以なり又渾沌未分説の如ハ物體每小必ず帶とる

界圍氣と謂なるべし又五行の神の説ハ元素創成の理を謂  
 なるべし元素ハ越歷の變化する所小して萬物の首小有て  
 光熱小尾出す但元素の兄ハ水素次ハ炭素次ハ酸素其餘ハ  
 量の輕き質より算て重き質小及と知べし越歷ハ此元素の  
 裡小も雜賦す故小物として越歷有ざるハ無し光熱又諸元  
 素と離合變化し以萬物の形體と成す此小於て氣火水土の  
 四大あり設小太陽の如ハ實小越歷の神氣中小在て而も光  
 熱の本源と成きり太陽始て動や地球及七曜水、金、火、木、土、  
天王、海王と  
 生し地球復始て動て太陰と生す故小太陰ハ地球小因る地  
 球ハ太陽小因きり然バ地球の爲小ハ太陽と造化とするも



亦當然の理と謂べし、太古の始ハ既ハ無有の禹對あり、次ハ動靜あり、増減あり、而して太陽地球剖判の後、氣物あり、動植あり、動人植木、小して生死あり、生死有物として、牝牡の禹對無能ず、此又造化生育の道ハ因一規則なり、然ハ各國の一男一女の説の如き、此國ハ基て始祖有て、其苗裔漸次ハ彼國へ移住せし者とす、此説實ハ然とせば、狗猫及松竹等の始祖ハ何處の者とす、乎不審と謂べし、夫各國の人類ハ開闢の後、各地皆衆男衆女あり、造化の妙用物と造ハ既ハ之と生育なさりめむと謀る、大智大能有ながら、焉ぞ僅一禹對と此ハ造其苗裔の繁殖するを待て、後ハ彼處ハ移住せしむるが如き、

迂遠の拙策と行はむや、且其開闢の舊新と以、各國自他と褒貶する如ハ、今日人智開進の時ハ當て、固より之と論するハ足ざるなり、又各國の人民大抵ハ善と惡と常ハ相争て、終ハ善ハ惡ハ打勝べき者と想像し、是と以、死後の歡樂と得むと念願するハ、於てハ各又然とす、是善惡報應の説の揮發する所以なり、夫善とハ何ぞや、按するハ造化の規則を守て、人民生育の道と盡す者の總稱といふのみ、惡ハ之ハ反して、其生育の道と盡さず、却て之と傷害する者の總稱なり、然ハ善を賞し、惡を罰するハ、斷然世間ハ政律なる者有て、能人間世の諸惡と驅除せむとす、故ハ善惡報應説の如ハ、教法より之と



論せずして可なり、何となれば、教法小説若の効驗有らば、世間の政律ハ無用の廢物ハ屬す、豈然る効驗有むや、教法の關係する所の理ハ、唯政律の缺乏する所と彌縫し、人民と獎勵して、上命と賛成し、以國力と一致せしむるの理あるの、然バ教法ハ福善禍惡の說と宗とせず、新小進智退愚の說と開基して、以宗とすべきなり、抑惡の原因ハ愚の極する所なれば、之小智と開けしむる時ハ、其善小進む必然の道なり、設小今より後小至バ、果して天下の衆議と湊會し、一般之を確定し、以地球上の教法と統一し、至公至正の萬國公教と立布する者有べし、故小余筆と此小投て、指と此小屈て、以

後世の運と待と云爾、

萬國初 畢



明治七年第十月七日官許

定價三十五錢

同 九年第二月廿三日出版

大阪第二大區十小區

平民

編輯人

東井八郎兵衛

東清水町下ノ町

同

第一大區廿一小區

平民

出版人

本太助

唐物町四丁目



